



第118回 品質管理シンポジウム 開催要領

テーマ：変化に対応する品質経営
～ Just in Time + Just in Case ～

2024年12月

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後援：一般社団法人 日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

第118回品質管理シンポジウムのメインフレーム

特別講演	南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震の予測と防災 —「大地変動の時代」を生き残る企業戦略	京都大学名誉教授 鎌田 浩毅 氏
基調講演	変化に対応する品質経営 ～ Machining Transformation ～	DMG 森精機(株) 代表取締役社長 森 雅彦 氏
講演 1	サステナブルな顧客価値創造を目指して ～すべては想いにとどくために～	(株)ユーシン精機 代表取締役社長 小谷 高代 氏
講演 2	研究品質 ～変化する社会課題へのデンソーの挑戦～	(株)デンソー 執行幹部 先端技術研究所長 伊藤 みほ 氏
講演 3	アートと社会 ～現代アート普及の意義～ 歴史的・文化芸術都市、京都から (仮題) アートプロデューサー MUZ (株) 代表取締役 カルドネル 島井 佐枝 氏	
講演 4	品質管理を支えるダイバーシティ経営	富士電子工業(株) 代表取締役社長 渡邊 弘子 氏

【ご確認ください！】品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

- 品質…顧客及び社会のニーズを満たす度合い
- 品質保証…顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- サービス・ドミナント・ロジック…価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- グッズ・ドミナント・ロジック…価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何かできれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。
- コト価値の考え方…顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。
提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客様のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。
つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

第118回品質管理シンポジウム プログラム

テーマ：変化に対応する品質経営

～Just in Time + Just in Case～

開催期間：2024年12月5日（木）～12月7日（土）

会場：大磯プリンスホテル

月日	時間	科目（講演テーマは仮）	講演者（敬称略）	ライブ配信
12月5日 （木）	19:00～20:30 ※質疑応答含む	〈特別講演〉 南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震の予測と防災—「大地変動の時代」を生き残る企業戦略	鎌田 浩毅 京都大学名誉教授	配信あり
	20:30～22:00	GD（1）、談話室		なし
12月6日 （金）	8:30～8:40	主催者挨拶	佐々木 眞一 （一財）日本科学技術連盟 理事長	配信あり
	8:40～9:25	〈基調講演〉 変化に対応する品質経営 ～Machining Transformation～	森 雅彦 DMG 森精機(株) 代表取締役社長	
	9:25～9:40	〈質疑応答〉		
	9:40～9:45	入替（5分）		
	9:45～10:35	〈講演1〉 サステナブルな顧客価値創造を目指して ～すべては想いとどくために～	小谷 高代 （株）ユーシン精機 代表取締役社長	
	10:35～10:50	〈質疑応答〉		
	10:50～11:00	休憩（10分）		
	11:00～11:50	〈講演2〉 研究品質 ～変化する社会課題へのデンソーの挑戦～	伊藤 みほ （株）デンソー 執行幹部 先端技術研究所長	
	11:50～12:05	〈質疑応答〉		
	12:05～13:00	昼食休憩（55分）		
	13:00～13:50	〈講演3〉 アートと社会～現代アート普及の意義～ 歴史的文化芸術都市、京都から（仮題）	カルドネル 島井 佐枝 アートプロデューサー MUZ(株) 代表取締役	
	13:50～14:05	〈質疑応答〉		
	14:05～14:10	入替（5分）		
	14:10～15:00	〈講演4〉 品質管理を支えるダイバーシティ経営	渡邊 弘子 富士電子工業(株) 代表取締役社長	
15:00～15:15	〈質疑・応答〉			
15:15～15:35	GD 会場へ移動・休憩（20分）			
15:35～19:00	GD（2）		なし	
19:00～19:15	休憩（15分）			
19:15～20:15	夕食			
20:15～21:30	談話室			
12月7日 （土）	8:30～10:00	GD 報告（10分×8班 ※予備10分）	司会：森 雅彦 報告：各班リーダー	配信あり
	10:00～10:15	休憩		
	10:15～11:35	総合討論		
	11:35～11:50	第118回 品質管理シンポジウム まとめ	森 雅彦	
	11:50～12:00	次回（第119回）品質管理シンポジウム案内	119QCS 主担当組織委員 山田 秀	なし
	12:00～	昼食・解散		なし

※GD：グループ討論の略称

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

※組織名・役職は、2024年9月現在の表記になっております。

118QCSグループ討論 GDテーマ、趣旨と論点

<p>いかなる変化にも対応できる経営のあり方</p>		
<p>飯塚 悦功 (東京大学 名誉教授) 島田 さつき (ユーロフィンFQL (株) 執行役員)</p>		
<p>第1班 趣旨</p>	<p>いつの世も顧客・社会のニーズは変化し、技術も進化していきます。加えて、近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、企業を取り巻く環境が世界的に大きく変化しています。このような変化に伴い、顧客価値を創造・提供し続けていくために考えるべき要素が高度化・複雑化・多様化しています。一方で、日本の産業界は過去の成功体験が忘れられないためか、様々な変化に対しい確・迅速に対応できているとは言えません。今後、日本企業が持続的に成功していくためには、「Just in case」の考え方も必要になっています。そこで、第1班では、経営層がいかなる変化にも適時適切に対応できるようになるために、どのような経営スタイルを重視すべきか議論します。</p>	<p>論点</p>
<p>①環境変化を的確に把握し、将来のあるべき姿を描ける仕組みとは何か。 ②あるべき姿の実現のため、有すべき組織能力を認識しその具備に必要な検討事項は何か。 ③顧客価値創出に向け「新たな枠組みを生み出し革新する」ために経営視点で必要なことは何か。 ④これらを促進し、組織風土を変えていくために経営トップには何が求められるか。</p>		
<p>変化に対応するための研究開発のあり方</p>		
<p>丸山 一彦 (和光大学 経済経営学部 教授) 江間 富世 (パナソニック オペレーションズ株式会社 品質・環境本部 安全・品質部 品質企画課 品質企画総括)</p>		
<p>第2班 趣旨</p>	<p>近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。このような大きな変化の中で、企業は競争力を高めるために、社会課題の解決やお客様への新たな価値提供に向けて、予想される課題に対応する様々な最新の研究開発に取り組むことが一つのトレンドになっています。しかし、如何に最先端の研究開発を行っていたとしても、その成果が最終的に商品・サービスとなって顧客に受け入れられ、世の中に役立つなければ意味がありません。そこで第2班では、研究開発自体を議論するのではなく、商品・サービスの創造・提供プロセスの中でも、特に研究開発プロセスにおいて、この大きな変化の中で、社会に大きなイノベーションを起こす商品・サービスを確実に創造するために、右記の論点について議論します。</p>	<p>論点</p>
<p>①環境変化の識見、積極的な顧客思考、全員参加に基づく戦略(構成・仕組み・枠組み・計画)が適切に構築されているか。 ②顧客思考に基づく顧客・社会の課題を適切に情報収集できているか。 ③得られた情報から、狙いの品質を確実にする活動が適切に行われているか。</p>		
<p>変化に対応するための生産体制のあり方</p>		
<p>古谷 健夫 (株式会社クオリティ・クリエーション 代表取締役) 森口 一豊 (DMG 森精機株式会社 常務執行役員 生産技術加工担当, DMG 森精機製造株式会社 取締役社長, DMG 森精機プレジジョンコンポーネンツ株式会社 取締役社長)</p>		
<p>第3班 趣旨</p>	<p>予測可能、予測困難にかかわらず企業を取り巻く経営環境は大きく変化し続けます。これまでの日本の製造業は、現場の社員各々が主体的に問題・課題を解決する「現場力」で発展を続けてきました。このような変化の中で企業が生き残っていくには、「現場力」だけでは限界があり、変化に柔軟に対応する工場の革新が必要です。具体的には、労働人口の減少、高度技能者のカン・コツに頼り切りの古い設備によるサステナブルではない生産方法、高稼働時にのみ生産性が高い工程設計、社員の努力に委ねられた省エネルギー等があります。これら旧態依然としたものづくりのままでは、今後生産現場の中心を担っていくデジタルネイティブのZ世代には馴染みません。今、日本の工場がどう変わるべきなのかを議論します。</p>	<p>論点</p>
<p>①顧客、社会からの要求の現状把握と今後、生産体制にどのような変化が求められているか。 ②生産体制の変化への具体的な対応は何か。 ③具体的な対応を行う際の難しさとそれを克服するための工場のマネジメントは何をすべきか。</p>		
<p>変化に対応するための人材育成のあり方</p>		
<p>梶原 千里 (静岡大学 情報学部 行動情報学科 准教授) 山下千津子 (コマツ コマツウェイ総合研修センタ 所長)</p>		
<p>第4班 趣旨</p>	<p>近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。このような変化の中、世代交代が進み、Z世代(1990年代半ば～2010年初頭生まれ)が今後の日本社会の中心的な役割を演ずる時代になってきます。環境変化に伴い、企業が顧客に価値を提供し続けていくために考えるべき要素が複雑化・多様化し、若者の生活や仕事に対する価値観も変わる中、企業の人材育成は、終身雇用時代の旧態依然とした仕組みや内容に終始しているのではないのでしょうか。第4班では、入社した社員が、会社の中で成長と自己実現を実感できるような人材育成はどうあるべきかについて議論します。</p>	<p>論点</p>
<p>①生活や仕事に対するZ世代社員の価値観には、どのような特徴があるか。 ②次世代を担うZ世代社員には、どのような人材に育てほしいか。 ③①の特徴がある中で、②の人材を育成するにあたり、現在の課題は何か。 ④Z世代社員が会社の中で成長と自己実現を実感できるような人材育成とはどうあるべきか。</p>		

変化に対応するためのサプライチェーンのあり方		
新宅純二郎（明治大学 経営学部 特任教授） 岡田 浩二（日本電気(株) 品質統括部 シニアディレクター）		
第5班 趣旨	2000年代以降、川上の素材から最終消費までのすべてのサプライチェーンが一国で完結する例は少なく、サプライチェーンのグローバル化が進展してきました。ところが、2010年代以降、疫病、自然災害、国際的紛争による影響で、サプライチェーンが崩壊し、致命的な打撃を受けた企業も少なくありません。また、脱炭素や資源循環、人権問題に対する国際的な新しい動きは、自社だけでなく、サプライチェーン全体の把握や見直しが必要になっています。そこで、第5班では、我々企業がレジリエンスの高いサプライチェーン構造をどのようにして作っていくべきかについて議論します。	論点 ① ポリティカルリスク：政治的な紛争に備えて、事前の対策と事後の対策について。米中問題や台湾有事についても議論する。 ② 災害リスク：レジリエントなサプライチェーンの構築について議論する。代替生産体制、調達の実態（分散と集中）、在庫の持ち方、二次・三次にいたるサプライチェーンの見える化など。 ③ SDGsに対応したサプライチェーン：脱炭素や人権問題は、自社の生産のみならず、上流のサプライヤーのあり方まで把握していく必要がある。今度、どのような対応をとるべきかについて議論する。
変化に対応するための品質管理（自動化、DX）のあり方		
佐野 雅隆（拓殖大学 商学部 経営学科 教授） 花嶋 雅彦（元住友理工(株)）		
第6班 趣旨	近年、少子高齢化、脱炭素、資源循環、疫病、自然災害、戦争など、我々企業を取り巻く環境が大きく変化しています。環境変化に伴い商品やサービスが多様化する中で、品質保証の重要性は高まる一方ですが、それが難しくなっています。人に過度に依存するような品質保証は既に破綻しており、それが近年一部の企業に見られる品質不正にも繋がっていると考えられます。そこで、第6班では、多様化する商品・サービスの品質を保証するために、如何にして正しいプロセスでしか業務を行うことができないようにするか、万が一正しくないことが発生した際に、それに気づき止めることのできるシステムを構築するか、について議論します。	論点 ① 人間依存から脱却するにはどうすべきか。 ② 正しいプロセスでしか業務を行うことができないようにするために必要なことは何か。 ③ 正しくないことが発生した時、それに気づくことが可能なシステムをどのように構築すればよいか。
変化に対応するためのアフターサービスのあり方		
金子 雅明（東海大学 情報通信学部 教授） 國遠 正章（元豊田自動織機）		
第7班 趣旨	変化に対応するためには、商品やサービスを提供して終わりではなく、それらが提供後にお客様の現場でどのように使われているかを把握し、ライフサイクルを通しての価値を最大化するアフターサービス活動が必要です。従来から、このような活動の重要性・必要性が認識されていますが、実態としてはそこまで十分な取り組みが行われてきたとは言えないように思います。そこで、第7班では、顧客及び社会への価値提供を最大化するための「アフターサービス」を実現するにあたって、何が壁となっていて、それをどのように克服していけばよいかについて、議論します。	論点 ① 顧客・社会への価値最大化のために、経営・事業戦略の中でアフターサービスをどのように位置づけ、活動として何に取り組んでいるか。 ② アフターサービスの強化・充実を図る上で、各組織が直面している課題、困りごととなっているか。 ③ 価値最大化のために、今後アフターサービスをどのようにすべきか。
変化に対応するためのビジネスの上流プロセスの変革		
森田 浩（大阪大学 情報科学研究科 教授） 尾本 勝彦（元パナソニック株式会社 品質・環境本部 本部長）		
第8班 趣旨	企業を取り巻く環境は大きく変化してきており、このような変化に対応して企業が生き残っていくためには、これまで以上に顧客や社会の抱える課題や問題に目を向けて一歩先のニーズを捉えることが重要です。マーケティングや開発企画といったビジネスにおける上流プロセスにおいては、このような変化を捉えてどう市場を開拓していくかということが必要となるとともに、その変革を起こすための自社の組織風土も更なる強化が必要となってきます。第8班ではBtoCに限らずBtoBにおいても、一歩先を見て活動するためにどのような仕組みが求められるかについて議論したいと思います。	論点 ① 既存顧客の潜在的ニーズの変化、新たな顧客のニーズをどのように捉えるべきか。 ② 捉えた顧客ニーズの実現に向けて、自社の力をどのように変革させるべきか。 ③ 変革を推進するための組織としてのイノベーション文化をどう醸成していくべきか。

* GD 会場の収容人数の関係から各班 15～30 名となります。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます。

* 組織名・役職は、2024年9月現在の表記になっております。

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ（事前準備等）

GD（グループ討論）ご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から事前のグループワークがスタートします。

シンポジウム当日の限られた時間の中でのグループ討論をスムーズに進行していくために、お申込み後、ご自身の所属班が決まりましたら（10/24頃）各班メーリングリストを開始いたします。

メーリングリストにて、メンバー同士の自己紹介（※1）や、意識・用語などの認識の擦り合わせ、論点の絞り込み等（※2）を行って頂きます。

10月24日頃	GD参加班決定のご連絡およびGDメーリングリストの開始
※1	自己紹介のご案内を、事務局から参加者ご本人にメールでお送りいたします。 ご自身の参加するGD班をご確認頂き、事務局からご案内するメールに従って自己紹介等をお願いいたします。
※2	GDリーダーを中心に、論点案についてメンバー間で意見交換を行って頂きます。総合討論の論点・提言の枠組みを踏まえて ①テーマについて「どの範囲に絞って討論するのか」を提示する。（GDリーダー） ②その範囲で「何を論点として討論するのか」を提案する。（メンバー） ③メンバーが提案した論点案を整理する。（GDリーダー、記録係） * GDリーダーによって進行の方法は様々です。事前アンケートなどを行う班もあれば、テーマ趣旨論点によっては自己紹介のみの班もございます。
11月21日頃	品質管理シンポジウム開催のご案内メール送信
12月2日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
12月5日～	第118回品質管理シンポジウム開催

* 報文集は当日現地にてお配りいたします。

(2) 開催日当日ご準備頂くもの

服 装：

- 1) 楽な服装でご参加いただいて結構です。ネクタイ着用の必要はありません。
- 2) シンポジウム受付時に名札をお渡ししますので、会期中胸につけて下さい。
- 3) マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持 ち 物：

- お名刺（50枚程度）
- 筆記用具
- ※あればGD時に便利なもの
- ◆ モバイルPC又はタブレット端末等

GDでは各班ごとにZoomをご利用いただけます。お席によってプロジェクタ画面が見つからない場合に、Zoomにログインいただけますとお手元のPC、モバイル端末でプロジェクタ投影画面をご覧いただけます。

ただし、お部屋によってはWi-Fiの電波が弱い場合ポケットWi-Fiもお持ちいただくと安心です。

会場のご案内（1日目）

12 月 5 日 (木)	<p>大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシーで、大磯駅から約7分（約1,800円）、小田原駅から約30分（約5,800円）</p> <p>大磯駅をご利用頂くQCS企業・団体会員の参加者の方は会場までのマイクロバス送迎サービス（定員21名）をいたします。 第1便 15：50（定員21名） 第2便 16：40（定員21名） 第3便 17：30（定員21名） 第4便 18：30（定員21名） *先着順となりますので乗り切れない場合は、タクシー又は路線バスをご利用ください。詳細は「別紙」をご確認下さい。</p>	
	シンポジウム受付 チェックイン	<p>シンポジウム受付・チェックインは1F 客室棟玄関です。 ・16：00 から受付を開始いたします。 （19：00 以降のご到着の場合は、ホテルフロントに受付が移動となりますのでご注意ください。） ※詳細はP9館内地図および「別紙」をご確認ください。</p> <p>【館内のご案内】 ・各部屋インターネットが無料をご利用になれます。 ・大磯プリンスホテルは全館禁煙です。 ※喫煙は、屋外の喫煙スペース(1F)でお願いします。 ※ホテル内各居室等での喫煙(電子タバコも含む)が確認された場合、クリーニング代として50,000円を請求いたします。</p>
	夕 食	<p>メインバンケットホール(かもめ) ・17：30～18：45（到着が遅れる場合は19：30迄）にお取りください。 ・お飲み物をご自弁いただきます。</p>
	特 別 講 演	<p>メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・19：00 から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。</p>
	GD	<p>各会場(当日ご案内いたします) ・特別講演終了後、20：30 から開始いたします。 ・1日目のGDは、グループで自己紹介(名刺交換等)を行って頂きます。</p>
	談 話 室 (QCバー※)	<p>メインバンケットホール (かもめ) ・GDの班毎にご着席頂きます。 ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とおつまみを用意しますのでご利用ください。 ・談話室は、会場利用の関係から22：00迄となります。</p>

会場のご案内（2日目）

12 月 6 日 (金)	朝 食	メインバンケットホール(かもめ) ・6:30～8:30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	講 演	メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・8:30から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。 ・会場には、お水(ペットボトル)をご用意しております。
	昼 食	メインバンケットホール(かもめ) ・12:05～13:00にお取りください。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
	給茶サービス	メインバンケットホール ホワイエ ・GD 開始前 15:15～15:35の休憩・GD 移動時間に講演会場外のホワイエにコーヒー、紅茶をご用意しております。 ・お飲み物は、そのままGD会場へお持ちいただけます。
	GD	各会場 ・別途、班ごとの会場をご案内いたします。
	夕 食	メインバンケットホール(白鳥・鶴) ・19:15～20:15で立食パーティー(※)を予定しております。
	談 話 室 (QCバー※)	メインバンケットホール(かもめ) ・会場は20:15からご利用いただけます。(会場は21:30迄。自由参加) ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とつまみをご用意しております。

※ご夕食の形態、談話室(QCバー)はCOVID-19の感染状況により、変更・中止の場合がございます。

会場のご案内（3日目）

12 月 7 日 (土)	朝 食	メインバンケットホール（かもめ） ・6：30～8：30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	チェックアウト	プログラム開始前に、「メインバンケットホール入口」にてルームキーを回収いたします。 ※但し、お部屋にて有料のルームサービスやマッサージご利用の場合は、8：30までにホテルフロント（スパ棟1F）にてチェックアウトをお願いします。
	手 荷 物	メインバンケットホール（白鳥、鶴）後方 ・貴重品の管理は各自でお願いします。
	G D 報 告 論 と 総 合 討 論	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・8：30～12：00の予定です。 ・会場入口に、GD報告資料と水（ペットボトル）をご用意しております。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席をご用意しております。
	昼 食	メインバンケットホール（かもめ） ・12：00～お取りいただけます。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
<p>大磯プリンスホテルからの交通機関</p> <p>①シンポジウム終了後、QCS企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。詳細は、当日現地にてご案内致します。</p> <p>②大磯駅に向かう路線バスがございます。 「大磯プリンスホテルバス停」 「大磯プリンスホテル入口バス停（ホテルより徒歩5分）」</p> <p>③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントに直接お申し出ください。</p>		

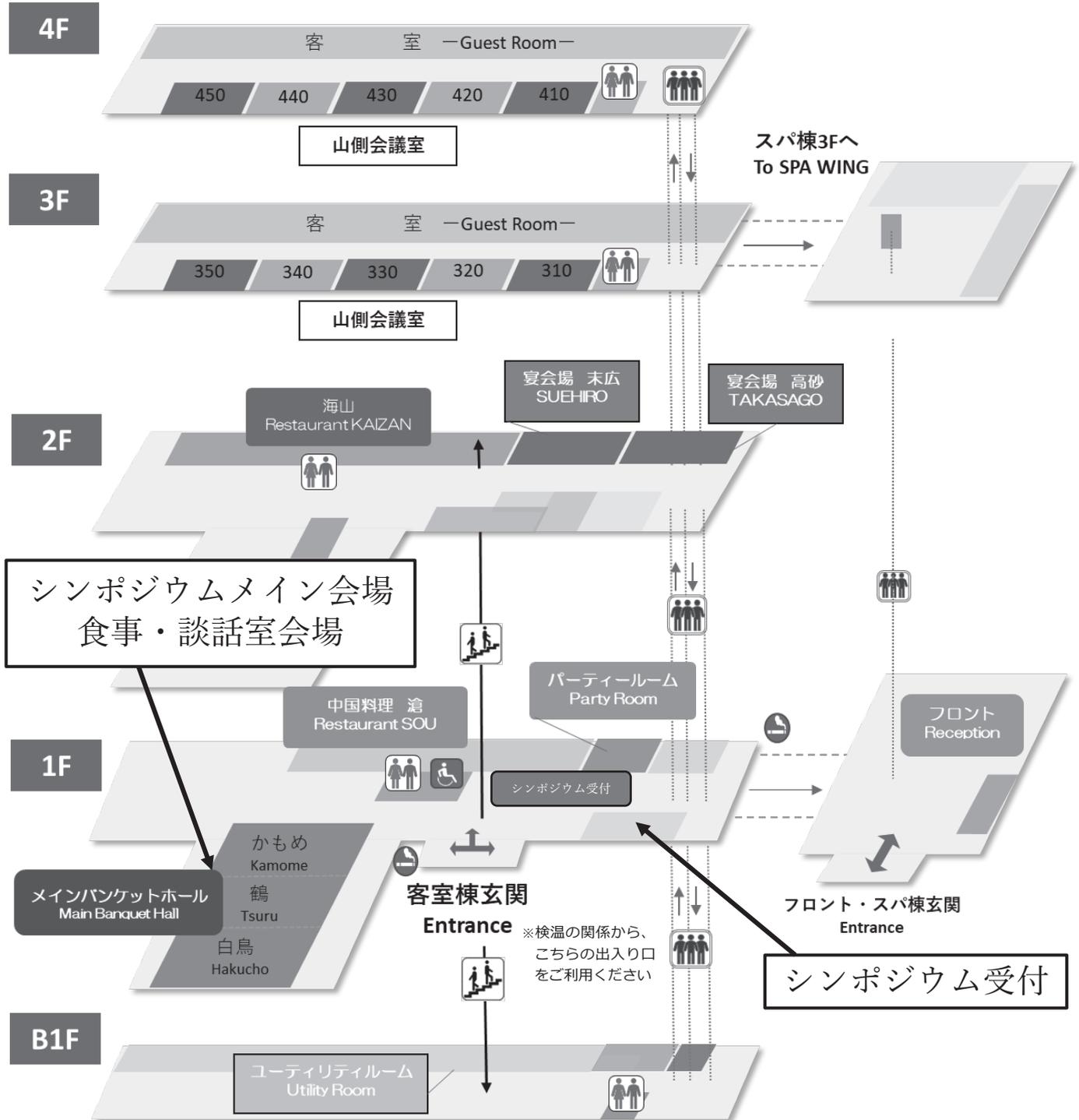
大磯プリンスホテル 会場案内図

集合参加の皆様へ

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL : 0463-61-1111

客室棟



グループ討論 (GD) 会場

※ 3F・4Fの山側会議室、2F宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※ 会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを通じてお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴頂けます。

※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

※1IDにつき1参加者となります。複数名でのご視聴はできません。

開催までのスケジュール

11月14日	品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切
11月21日頃	(1)品質管理シンポジウムご案内メール送信（視聴方法等ご確認ください） (2)動画配信サイト Deliveru よりご視聴用 ID・PWD ご連絡（参加者宛にメール送信）
12月2日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
12月4日	参加者様へ Deliveru より ID・PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内）
12月5日 19：00～	第 118 回品質管理シンポジウム開催

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

報文集は、動画視聴サイトDeliveruの各イベントページ内にあります「資料ダウンロード」タブよりダウンロードしてください。

※当日に視聴できないとのお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。

必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声再生されるかを確認してください。

<https://deliveru.jp/pretests/video>
ID・PW：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が流れるかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。

<https://deliveru.jp/faq/#Q7>

開催当日（参加中）の通信トラブル等に関するお問合せは下記までご連絡ください。

TEL：080-1709-9977（会期中のみ）

E-mail：qcs@juse.or.jp

「見逃し配信」について

ライブ視聴参加の特典として、許可いただいた講演の動画をシンポジウム翌週12月11日（水）13：00～より1週間の期間限定にて「見逃し配信」をご視聴頂けます。

ライブ視聴参加者へは、シンポジウム終了後、準備が整い次第、事務局よりメールにてご案内いたします。

その他ご案内

参 加 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ●集合参加……………現地（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介し PC やモバイル端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GD へは参加できません。 <p>◆シンポジウム申込方法 QCS 専用 WEB サイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/</p>
参 加 費	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の 2 名分、団体会員は通常枠の 1 名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の 1 名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、57,200 円／1 名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、132,000 円／1 人にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1～2日目）、GD 報告・総合討論（3日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50 名まで …………… 550,000 円 51～100 名まで …… 880,000 円 101～200 名まで … 1,100,000 円 ※ 201 名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問い合わせください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただきます。 ※招待討論者は、シンポジウムの GD や総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。参加費は頂いておりません。 <p>◆参加費に含まれるもの 集合参加者の 1 日目夕食、2 日目昼食・夕食、3 日目昼食</p> <p>◆請求書について 参加費の請求書は、シンポジウム開催の 1 ヶ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より 2 ヶ月以内となります。</p>

*日科技連よりご請求書を発行いたします。

その他ご案内（集合参加）

交通費	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り 								
宿泊費 * (株) ジャパトラ よりご請求書を 発行します。	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 1人部屋（2泊52,700円）*朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※1部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り ● 宿泊費キャンセル料 旅行開始の前日から起算してさかのぼって： <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">① 11月28日（木）17：00 より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 無料</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">② 11月28日（木）17：00 以降～ 12月4日（水）17：00 より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の 20%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">③ 12月4日（水）17：00 以降の解除（④を除く）</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の 50%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊</td> <td style="text-align: right;">- 100%</td> </tr> </table> ● 請求書について 請求書は、以下スケジュールに沿って申込時の連絡担当者様宛に順次メールにてお送りします。 お振込み期日に余裕をもったお申込みをいただきますようお願い申し上げます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月1日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送 ● 11月2日～18日のお申込み→お申込日より3日以内に発送 ● 11月19日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送 <div style="float: right; text-align: right; font-size: small;"> } 11月28日(木)までに お振込みください 弊社が指定する期日ま でにお振込みください </div> </div>	① 11月28日（木）17：00 より前の解除	- 無料	② 11月28日（木）17：00 以降～ 12月4日（水）17：00 より前の解除	- 旅行代金の 20%	③ 12月4日（水）17：00 以降の解除（④を除く）	- 旅行代金の 50%	④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	- 100%
① 11月28日（木）17：00 より前の解除	- 無料								
② 11月28日（木）17：00 以降～ 12月4日（水）17：00 より前の解除	- 旅行代金の 20%								
③ 12月4日（水）17：00 以降の解除（④を除く）	- 旅行代金の 50%								
④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	- 100%								
宿泊の部屋割り	部屋割は事務局に一任させていただきます。								
その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願います。 ② 食事メニューは事務局に一任させていただきます。 <p>※記載金額はすべて税込みとなります。</p>								

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当：安随、密、橋本、鈴木（佐）
 〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビルディング 4階
 TEL：03-5990-5846 E-mail：qcs@juse.or.jp

【ご宿泊に関するお問合せ】

株式会社ジャパトラ QC デスク 担当：柏木、鶴川、西森
 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 8階
 TEL：03-6915-3646 E-mail：qcdesk@japatra.co.jp

品質管理シンポジウム会員内規

1. 一般財団法人日本科学技術連盟は、その主催する品質管理シンポジウムの研究目的を達成するため、品質管理シンポジウム会員を募る。
 2. 品質管理シンポジウム会員は品質管理シンポジウムの趣旨に賛同し、下記の会員1口以上を負担する法人、団体または個人とする。
 - 企業会員：1口につき年額 221,100 円（消費税込み）
 - 団体会員：1口につき年額 128,700 円（消費税込み）
- (1) 会員は年2回開催する品質管理シンポジウムに対し、会員一口に下記の参加枠を確保できる。
 - 企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）（トップ（会長もしくは社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみ）
 - 団体会員：無料参加枠1名（通常枠）
 - (2) ただし、参加に必要な交通費、宿泊費（部屋代）は自己負担とする。
 - (3) 本シンポジウムの報文集・実施報告ならびにその他のシンポジウム関係資料の配布を受ける。

(2024年4月1日改訂)

大磯駅から大磯プリンスホテルへ送迎案内

別紙

大磯駅から大磯プリンスホテルまで

① ホテルバス（マイクロバス）送迎サービス

- 第1便：15:50 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
 - 第2便：16:40 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
 - 第3便：17:30 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
 - 第4便：18:30 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
- ※各便 21名定員となります。先着順となりますため、乗りきれないお客様は以下②③をご利用ください。

② 路線バス

バス停 1 および 2 よりご乗車ください。

③ タクシー

大磯駅から約7分（約1800円） ※交通状況により変動いたします。



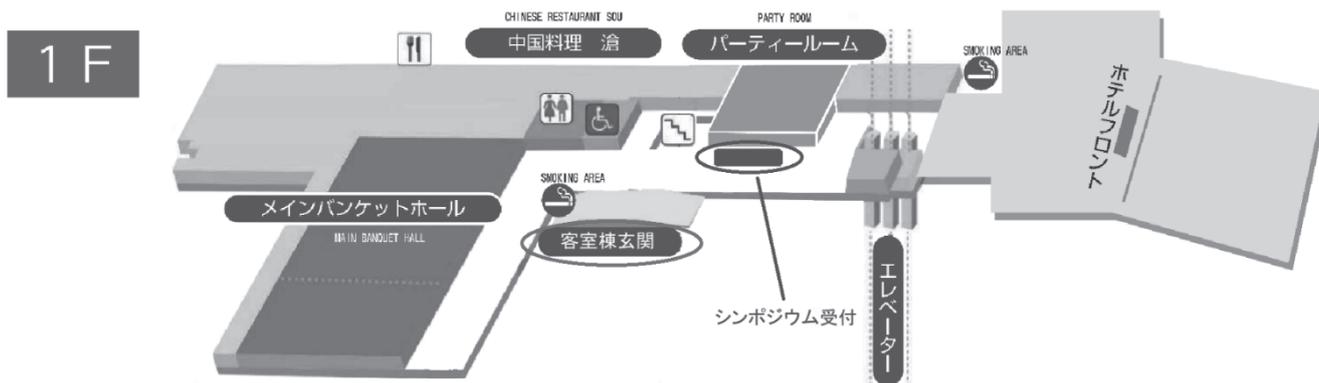
大磯プリンスホテル 会場案内図

(〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546)

シンポジウム開始日時：12月5日（木）19時00時～ 特別講演

受付開始時間：16時00分～（19時30分迄）

※19:30以降、受付はホテルフロントで行いますので、ご到着が遅れる場合はホテルフロントへお越しください。



検温の関係から、下記の案内図に記載の「客室棟玄関」からお入りください。

=====

本シンポジウムに関するお問い合わせ先：

一般財団法人 日本科学技術連盟 QCS担当 安随（あんずい）、密（みつ）、橋本、鈴木（佑）

TEL：03-5990-5846（土日を除く）・080-1709-9977（会期中 12/5～7）

E-mail：qcs@juse.or.jp